

MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

無 壽 燈

2010年3月
No.133



大谷大学同窓会

「思いもかけない出遇い」

鍵主良敬先生にインタビュー



本学において、永年にわたり教鞭をおとりいただきました鍵主良敬先生に、尋源館にお越しいただき、お話を伺いました。

—先生が大谷大学に入学された経緯について、お聞かせください。

私が大谷大学に入学したのは、昭和二十七（一九五二）年です。北海道の小さな寺で生まれ育った私は、小さいころから寺も坊主も嫌いで、念仏にも真宗にもまったく関心が持てませんでした。実をいえば、仕方なく大谷大学に入学したのです。ですから入学した当初は、何の期待も希望もないという暗澹たる心境でしたね。

—先生が入学後、とくに印象に残った授業はありますか。

当時の大谷大学は貧しく、おんぼろ校舎で、寒いときなんか吹きさらしのような校舎でした。だけどそんな中で、私はカルチャーショックを受けました。ああこれが大学なのか、大学の学問とはこういうものなのか、という思いですね。その頃谷大には、京大から語学の先生方が教えに来ておられました。今でも鮮明に覚えています。ある英語の先生が、佐藤春夫の「秋刀魚の歌」について詳しく講義してくださったことがありました。「さんま、さんま、さんま苦いか、塩っぱいか」という有名な詩ですね。学生一人ひとりに熱心に語りかける先生の姿が今でも目にうかびます。その先生の講義をとおして、この詩が持つことばの重みや、心の深さというものを学びました。

しかもその先生方は、大谷大学が本当に好きで谷大に期待しているということを、しみじみと話されるのです。ですから私は、それまで何

の期待も持てなかった谷大に、きつと何か違うもの、大事なものがあにちがいない、と思えるようになり、少しやる気が出てきました。

—先生は以前、「自分は間違って華嚴を専攻してしまった」とおっしゃったことがあります。先生が華嚴教学を専攻することになった経緯についてお聞かせください。

たまたま本寺の住職から、自分のところに参考書が多少あるから「華嚴」を学んでみてはどうかといわれただけで、三回生になつて『華嚴經』を専攻することになりました。華嚴のゼミを担当されていたのは山田亮賢先生です。

ゼミでは学生は与えられた発表をしなくてはなりません。私は自分の発表をとおして、華嚴の学問にそなわる本質的な恐ろしさを思い知らされることになりました。発表のさなかに、につちもさつちもゆかず、茫然自失して佇んで（たす）いる自分の姿が、思い起こされます。

私にとつて、華嚴というのはとてもなく巨大で恐ろしい、というような感覚が今でもあります。今から思いますと、それは如来の世界そのものが持つている必然的な意味あいなのでしょう。ですから、こちら側の安易な思い込みや傲慢な態度を

もつて対するときには、容赦なく跳ね返される世界であることを、いまだに感じますね。

—卒業論文ではどのような研究に取り組まれましたか。

自分でもどうしたらいいのか分からないので、山田先生に相談しましたら、「菩提心」という課題を示してくださいました。先生のご指示に従って、中国の賢首大師法蔵の『華嚴經探玄記』と、金子大榮先生の『仏教概論』や『佛教の諸問題』を読んで、卒論をまとめました。

ところが卒論を提出した後から、「お前はうそを書いた、うそを書いた」と卒論が囁きだしたのです。「引用した金子先生のお言葉と、『探玄記』や『華嚴經』は正しい。しかし、それをなぞっているお前の文章は全部うそだ」と幻聴のように聞こえてきたのです。ある種のノイローゼですね。ですから、私はそういう恐ろしさを感じながら、華嚴という巨大な世界、とてつもなく広く、とてつもなく深い領域に足を踏み入れることになったのです。

—大学院に入学する経緯と、その後のご研究についてお聞かせください。

卒業したら中学校の教師への採用が決まっていました。卒業式をすま

せ山田先生にご挨拶をして、お暇いとまいたしました。ところが、その時の私はよっぽど情けない顔をしていたのでしようか、帰る私を先生が追いかけて来てくださり、「お前、もうちょっと勉強がしたいのと違うか」と声を掛けてくださいました。そのお言葉を聞いた途端に、私は何のためらいもなく「はい」と答えていました。実家の寺には、「中学校に勤めるのを止める、もうちょっと勉強を続ける」という電報を打ち、大学院に進むことになりました。

大学院での研究の中心テーマは、やはり結局「心」の問題ですね。ですから、「菩提心」という課題の、菩提の「心」の方です。大学院に入りまして、山田先生は定年で退任されましたので、安藤俊雄先生のゼミに所属しながら、横超慧日先生にも学びました。思想的なものに対する感性の豊かさを安藤先生から教えて頂き、そして、文献を読むという見事な力量については、横超先生から学びました。大学院での修士論文の研究を経て、擬講論文では「華嚴教學序説」というタイトルのもとで「真如と真理」について追究し、「心」の問題を考察しました。この研究が後に『華嚴教學序説—真如と真理の研究—』（文栄堂刊）という著作として出版されました。

—学生さんとの関わりについてお聞きしたいのですが、先生はクラブの顧問は何をされたのですか。

仏教青年会の顧問になりました。このクラブでは『歎異抄』を読む勉強会しており、毎年の合宿には私も参加しました。好き勝手に自分たちで研究発表会をやっておりましたね。そのような言いたい放題の議論の中から学ぶことも多くあり、私の勉強にもなったし、また、学生諸君の忌憚なまのない悩みとか、生の問題に触れることもでき、有意義な経験でしたね。

—先生の現在のご関心についてお聞かせください。

この頃、曾我量深先生の「法蔵菩薩は阿頼耶識」という問題に取り組んでいます。考えてみれば、私は金子大榮先生の華嚴を出発点として卒論をまとめ、そして、最後にこの曾我先生の唯識に到りついたと感じております。改めて唯識・華嚴と親鸞聖人の結びつきのようなところを、曾我先生の教えに導かれながら、解明したいと願っています。

—最後に先生の「大谷大学への願い」をお聞かせください。

各地の同窓会にお邪魔して同窓生の人たちとかかわる中で、大谷大学

で出会った、ある確かなものに対する信頼感のようなものを感じ取る事ができます。それを大学の「樹立の精神」と言うのでしょうか。世の中では、科学も技術もお金も大事かもしれない。しかし、大事だ、大事だと言っているその人間の魂、意識というか「こころ」そのものこそが根本ではないですか。もっと何か根源的な問題とのかかわりで果たすべき責任を、大谷大学は願われているのではないのでしょうか。ですから「人間が大好きです」と。これはいい言葉ですね。そういう大学として生きていっていただきたいと願っています。

偉大な謎の先生

出遭いは全く強烈でした。不遜な動機で入学した私は、「総合2」（現在の人間学Ⅰ）で先生の鉄槌を食らったのです。「ある男がいた。床柱を背中に坐り、両脇に女性を抱え、懐にはたっぷりの金目の前にはお酒と御馳走がある。しかしこの男には決定的に足りないものが一つ

大谷大学教授（仏教学） 織田頭祐

〔略歴〕	一九三三年 北海道に生まれる
	一九五六年 大谷大学文学部卒業
	一九六一年 大谷大学大学院博士課程
	一九六一年 仏教学専攻単位取得
	一九六一年 大谷大学助手
	一九六六年 大谷大学専任講師
	一九七一年 大谷大学助教授
	一九七八年 大谷大学教授
	一九八四年 大谷大学大学院文学研究科長
	一九九九年 大谷大学退職
	現在 大谷大学名誉教授
〔著書〕	
	『顕浄土真仏土文類』窃以
	（二〇〇八年安居講本）
	『無上涅槃の妙果』（一九九九年安居講本）
	『華嚴教學序説—真如と真理の研究—』
	『要説大乘起信論』
	『華嚴経管見』
	『人間開華の旅—華嚴経のこころ—』
	〔法蔵〕（共著）
	他論文 多数

鍵主良敬先生へのコメント



おだ あきひろ
1985年3月大学院博士後期課程
仏教学専攻（満期退学）

ある。君たち一週間よく考えてきなさい」と言われたのでした。田舎出の純情青年だった私は、あーでもないこーでもない一週間真剣に考えましたがさっぱり分かりません。結局、クラスの誰も分かりませんでした。すると先生は「誰も分かりませんか。〇〇ですよ」と言われたのでした。それを聞いて、謎は更に深まり、頭は混乱し、血は逆流して、気が付いてみるとそれ以来先生の周りをウロウロしているのです。数十年たった今でも…さて皆さん、その〇〇とは何だと思えますか？この続きはいずれまた。



本部

報告



二〇一〇年度同窓会総会の案内

開催日 二〇一〇年五月十二日(水)
時間 午後一時三〇分～
(総会終了後、懇親会)

支部長・事務局交代のご紹介
ありがとうございました
よろしくおねがいいたします

- 〈函館支部長〉 黒崎 昭明 (前支部長 三浦祐伸)
- 〈福島県支部長〉 木ノ下 秀昭 (前支部長 片岡英信)
- 〈熊本支部長〉 菊池 顕正 (前支部長 有馬鴻龍)
- 〈大阪北支部長〉 難波 明則 (前支部長 井関 浄)
- 〈大阪東支部長〉 長谷 東洋 (前支部長 松谷昌英)
- 〈大阪南支部長〉 長谷 俊成 (前支部長 北島顕信)
- 〈岡山支部長〉 丹下 信行 (前支部長 發知正美)
- 〈福井支部長〉 日下部 求 (前支部長 原 直樹)
- 〈函館支部事務局〉 田中 彰祐 (前事務局 細川貞寿)

〈福井支部事務局〉 清水 顕
(前事務局 日下部 求)

二〇〇九年度前期卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会を開催

二〇〇九年九月三十日(水)、講堂において大谷大学・同大学院・大谷大学短期大学の卒業証書並びに学位記授与式が挙行されました。式典終了後、多目的ホールにおいて同窓会と大谷大学が主催する「大谷大学卒業・修了ならび同窓会新入会員歓迎祝賀会」が開催されました。



卒業・修了式(上)と歓迎祝賀会(下)

歓迎祝賀会では、木村宣彰学長、佐賀枝夏文同窓会理事長の祝辞、挨拶に続いて、教育後援会の遠藤由香監事の発声で乾杯がおこなわれ、祝宴が始まりました。指導教員も出席され、卒業・修了生は学生生活最後

の恩師、友人との語らいに時が過ぎるのを惜しむ様子で、和やかな歓談の一時を過ごして終了しました。

高堂祐眞さん「文部科学大臣優秀教員賞」を受賞

高堂祐眞さん(一九七八年文学部真宗学科卒業)が、平成二十年年度の文部科学大臣優秀教員賞を受賞されました。現在、滋賀県立河南中学校の国語科教諭としてお勤めで、中高国語科研究会の中心メンバーでご活躍です。授業実践や研究論文の雑誌への発表など、精力的に活動を行なってきました。その優れた成果が認められ、今回の受賞となりました。母校に受賞報告の挨拶に来校され、在学時代の恩師である木村宣彰学長と歓談。学長から「荣誉ある賞の受賞おめでとう。ますますのご活躍と後輩にあたる本学学生への指導も期待しています」と、お祝いと今後の



受賞の高堂祐眞さんと学長

期待の言葉が述べられました。(本紙「同窓通信」二二二頁に関連記事を掲載)

鈴木恵子さん 第二十一回夏季デフリンピックで銅メダルを獲得

四年毎に開催される聴覚障害者のオリンピック「第二十一回夏季デフリンピック台北大会二〇〇九」(二〇〇九年九月五日(土)から十五日(火)開催)に、鈴木恵子さん(二〇〇四年文学部社会科学科卒業)が女子バレーボール日本代表選手として出場し、銅メダル獲得に貢献されました。

鈴木さんは、「今までに世界大会の決勝戦を二回経験しましたが、二回とも最後に負けて終わる大会でした。今回は銅メダルですが、大会最後の試合に勝って終われたので、本当にうれしかったです。今後は、二〇一三年に開催されるギリシャ・アテネ大会に向けて身体をケアしながら頑張っていきたいです」と抱負を語ってくれました。

また、二〇〇九年十二月三日(木)



メダルを手に笑顔の鈴木恵子さんと日本代表監督

には、今大会入賞者の功績を称える厚生労働大臣賞を、二〇一〇年二月十日(水)には、京都市スポーツ賞を受賞されました。

大谷大学、同窓会、尋源舎の協働・共催による「全国縦断夏季八十講」が好評のうちに終了

二〇〇九年度から夏の巡回講演会が、名称を「大谷大学・同窓会全国縦断夏季八十講」にリニューアルし開催されました。講演では「日常と学問をつなぐ」を統一テーマに掲げ、市民により身近な講演会になるよう配慮しました。今年も全国六十九会場で、二、七〇〇名余りの方々にご参加いただきました。

また、「静岡県支部」「福井支部」「神戸・阪神二支部合同」「佐賀支部」では、地域への広報と市民への参加を積極的に呼びかけるため、※NPO法人「尋源舎」との共催で「仏教公開セミナー」として開催しました。

※NPO法人「尋源舎」は同窓会が母体となって設立した、仏教の公開を主な目的とする特定非営利活動法人です。同窓会員をはじめ、全国各地の皆さまのご寄付（一口・三千円）で運営しています。

申し込みと問合せは、同窓会本部 TEL・〇七五―四一―八一二四まで

■静岡県支部

二〇〇九年八月一日（土）
池上哲司 大谷大学教授

「今、ここに生きるということ」
静岡市「グランシップ」



静岡市・グランシップにて

■福井支部

二〇〇九年九月十一日（金）
谷口奈青理 大谷大学准教授
「日常と学問をつなぐ―こころの現場から見ること―」
福井市「真宗大谷派福井別院」



福井市・真宗大谷派福井別院にて

■神戸・阪神二支部合同

二〇〇九年八月二十九日（土）
大内文雄 大谷大学教授
「日常と学問をつなぐ―中国仏教史学の視点から―」
神戸市「神戸市教育会館」

■佐賀支部

二〇〇九年八月二十九日（土）
木村宣彰 大谷大学長
「真実の救済―凡夫の救いとは？」
唐津市「唐津市高齢者ふれあい会館」



神戸市・教育会館にて

■早寄得雄さん母校で「法語書展」

二〇〇九年十月一日（木）から十五日（木）、早寄得雄さん（一九六一年文学部史学科卒業）が、母校大谷大学で「法語書展」を開催されました。これまでも、寺院、教務所、ギャラリー等で作品の展示活動をされてきましたが、母校での書作展の開催を聞きつけた同窓が全国から多数駆けつけました。早寄さんの力作を前



唐津市・高齢者ふれあい会館「りふれ」にて



作品「安養」と「浄土」

に、その書作の素晴らしさと労作に對し、賛嘆と労いのことばが寄せられていました。

■福代亮樹さんジャズ全国大会でグランプリを獲得

福代亮樹さん（二〇〇九年文学部仏教学科卒業）が、二〇〇九年十月開催のジャズ全国大会「第三回神戸ネクストジャズコンペティション」でグランプリを受賞されました。

福代さんは中学校の吹奏楽部でサックスを始め、高校そして大谷大学へ入学後もサークル活動を通してサックスを続け、学園祭のステージでの出演や、二〇〇八年の第二回大会では準グランプリに選ばれるなど、在学中から活躍されていました。



ジャズ全国大会でサックス演奏する福代亮樹さん

今後、福代さんのますますの活躍を期待します。

第十四回大谷大学同窓会ホームカミングデーを開催



挨拶する藤島建樹会長

二〇〇九年十一月十四日（土）、同窓会主催の「ホームカミングデー」が、大学の学園祭（紫明祭）期間中にあわせて開催されました。ホームカミングデーも今年で十四回目を数え、名誉教授をはじめ、退職された先生や在職教員の出席を得て、全国から同窓生、その家族など約百九十名の参加をいただきました。



イベントのサインをする木村宣彰学長

第Ⅰ部は、テーマ「発見！ 谷大同窓生」として、博綜館第一会議室をメイン会場に、久しぶりに再会した恩師や旧友とごやかに懇談がなされました。懇談中を利用して、同窓生同士の新たな出会いを期待した参加型イベント「あの人を探せ！」が催され、参加者には、全国の同窓会役員ならびに各支部から提供いただいた特産品などが景品として贈られ、大変好評を博しました。

また、「学園祭模擬店利用券」が参加者に配付され、模擬店の利用を通して、在学生との交流も図られました。そして、投票により、模擬店優秀団体に剣道部が選ばれ、翌日の後夜祭で同窓会より表彰状と記念品が贈られました。



恩師との再会風景



ダッシュヨバラニさん（中央）と在学生によるインド舞踊

第Ⅰ部の後半では、第十回ホームカミングデーから五年連続して出席された同窓生十三名に、記念品として大学オリジナルグッズが贈呈されました。

第Ⅰ部終了後、「京都ロイヤルホテル&スパ」に会場を移し、第Ⅱ部の「懇親会」が開催されました。懇親会では、「同窓生の活躍紹介」の催しとして、本学卒業生で現在、非常勤講師のダッシュヨバラニさんと在学生有志によるインド舞踊が披露されました。その後、ダッシュヨバラニさんを囲んでの歓談が行われ、参加者一同和やかな雰囲気の中、盛会裡に終了いたしました。

第14回 ホームカミングデー（2009.11.14）



比叡山を背に記念撮影（博綜館屋上にて）

尋源館（旧本館）「塔」の謎

三島由紀夫の小説『金閣寺』に、「本館は古い沈鬱な赤煉瓦の二階建てである。玄関の屋根の頂きに、青銅の櫓がそそり立っているが、鐘楼にしては鐘が見えず、時計台にしては時計がない」と描写される尋源館（旧本館）の「塔」。岡田一也さん（二〇〇九年文学部人文情報学科卒業）が卒業論文に尋源館を取り上げ、その「塔」の謎に迫りました。はたして調査・研究の結果、「塔」の意味する真相はどのように明らかになったのでしょうか。この卒業論文の副査をつとめた、本誌編集委員の采翠晃講師にインタビューをしていただきました。

— 尋源館を取り上げた動機を教えてください。

私は近代建築に興味をもっていて、



設立当初の尋源館（旧本館）
1981年2月撮影



「塔」に込められた願いを語る岡田一也さん

大谷大学の中でも、大変美しい建物である尋源館に心惹かれていました。私が入学したときから尋源館の設計者も塔の由来もよく分からないと聞いていましたので、ぜひ明らかにしてみたいと思っていました。つまり、四年間暖め続けたテーマだということになります。

尋源館は、正門（当時は尋源館の南側）から見たときに威厳を感じさせるように配慮がされていました。また、『京都日出新聞』（現『京都新聞』）という一般紙に、建築予定である本館の設計図が大きく掲載されるほどに、社会から高い関心が寄せられていました。当時、大谷大学をこの地に迎えるということは大事件で、尋源館はその大谷大学の象徴でした。

— ところが、その尋源館の設計者や「塔」の意味が謎のままでしたね。

なかなか大変でした。本来ならば、設計者と施工者が設計図に記されて

いるのですが、大学に保管されている設計図にも、棟札にも誰が設計者なのか書いていません。尋源館のことを少しでも明らかにしようと多くの人にインタビューしている中で、村松法文先生から「奈良女子大学にも、尋源館と同じような塔がある」と教えて頂きました。そして実際に、奈良女子大学記念館（旧奈良女子高等師範学校本館〈重要文化財〉）の設計図を見ますと、尋源館の設計図にあるのと同じ松任外次郎の捺印があることを確認しました。そこから、この松任氏を中心として尋源館が設計されたことが分かりました。

奈良女子大学記念館にも尋源館のものと同く似た塔が設置されているのですが、奈良女子大学はこの塔を「頂塔（ランタン）」と紹介しています。そこから、尋源館の塔もランタン（角灯、提灯）として設置されたことが分かりました。

— 大谷大学にとってどんな意味をもつのでしょうか？

時計塔や鐘楼といった実用的なもの



聞き手・采翠 晃講師

のではなくランタンであるというのは、大谷大学にとっては重要な意味をもっているように思います。時計や鐘は、時刻という外的なものに人びとを従わせようとするものですが、ランタンは違った性格のもので、ランタンは、照らしはしますが、何かを強制しようとするものではありません。役に立つ人材を育てることが大学に求められていた中で、役に立つかどうかよりも、真理を自ら探求していく智慧をもつ人間を育てたいという願いが、具現化されているのではないかと思います。

— なるほど。現在の尋源館は、単なる記念館ではなく、実際に授業が行われる教室になっています。ここで授業を受けている学生さんにもそういった思いを受け継いでいてもらいたいですね。

そうですね。現在の尋源館（登録文化財（二〇〇〇年））は、大規模な改修が施されていて、個人的には残念に思う部分もあります。でも、現在も実際に教室として使用されていることには、歴史的建築資料としての価値とは違った意味があるのだと思います。

（岡田さんの論文はホームページ「無盡燈」<http://www.mujiinto-otani.org/>でご覧いただけます）

母校だより

第二十七代学長に草野顕之教授を選出

木村宣彰学長の任期満了（三月三十一日付）に伴う次期学長候補者の選挙が、二〇〇九年十二月、「大谷大学学長候補者選出規程」に基づき行われました。その結果、草野顕之教授（57）が最終候補者に選出され、その後、真宗大谷学園理事会（二〇一〇年一月十四日）において、大谷大学第二十七代学長に就任することが決定されました。任期は二〇一〇年四月一日から四年間で、大谷大学短期大学部学長も兼任されます。



草野顕之教授

草野教授は一九五二年、福岡県生まれ。一九八一年、大谷大学大学院博士課程を満期退学され、大谷大学講師、助教授を経て、二〇〇〇年四月から現職教授に就任。専門は日本仏教史（中世）・真宗史で、二〇〇三年三月、博士（文学）の学位を取得されました。

矢野のり子教授が、博士(学術)の学位を取得

二〇〇九年九月、本学の矢野のり子教授が、学位論文「初期言語発達における声と意味—ジャーゴンとひとり言—」により、奈良女子大学から博士（学術）の学位を取得されました。



矢野のり子教授

課程博士の学位を授与

二〇〇九年九月、博士後期課程修了者三名に、博士（文学）の学位が授与されました。学位取得者は、上野牧生さん（仏教学）、堀井愛さん（社会学）、菊池晃さん（国際文化）の各氏です。

「開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要」を厳修

二〇〇九年十月十三日（火）、「開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要」が執り行われました。十

月十三日を開学の日とするのは、近代の大学として出発した一九〇一（明治三十四）年十月十三日に開校式が挙行されたことによります。式典では讃歌、法要が営まれ、その後、永年勤続者表彰と記念講演が行われました。今年、勤続三十年を迎えられた事務職員二名の方々に表彰状と記念品が贈られました。

引き続き、元国際基督教大学学長の絹川正吉氏より「学ぶことの意味をたずねて」と題しての記念講演がありました。講演では、科学・技術の発展に伴い生じてきた現代的諸問題の解決に、『歎異抄』がもつ可能性を紹介されながら、宗教系大学にその糸口があると指摘され、大谷大学の果たす役割に大きな期待を述べられました。



絹川正吉氏

「大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要」を厳修

二〇〇九年十一月二十七日（金）、「大学報恩講並びに歴代講師謝徳法



大桑 斉名誉教授

要」が厳修され、来賓をはじめ学内外から多数ご参集いただきました。

宗祖親鸞聖人の絵像と歴代講師の肖像画が掲げられた講堂で、木村宣彰学長の調声により『正信偈』を全員で唱和し、報恩講を勤めました。引き続き歴代講師の謝徳法要では、『阿弥陀経』の読経中、来賓、学生、学寮生、教職員の代表焼香を頂きました。また、六名の学生が出直し、全学挙げての法要となりました。

法要終了後は、大桑斉名誉教授より「真宗と他者—依正二報滅亡の世に—」と題しての記念講演がありました。その後、学内食堂で小豆粥のお齋を全員いただきました。

南条文雄博士生誕一六〇周年記念講演会

二〇〇九年九月七日（月）、講堂を会場に、本学の第二代学長・南条文雄博士の生誕一六〇周年、および日本印度学仏教学会第六十回学術大

母校の動き (2009年9月～2010年3月)

2009年

9/ 7(月)～26日(土)

【博物館秋季企画展】

「南條文雄と近代仏教学」

9/10(木)【4号館・5号館竣工式】

9/24(木)【宗祖御命日勤行・講話】

「いまここにいます」 藤田 昭彦 大谷大学教授

9/26(土)【教育後援会全国父母兄弟懇談会】

9/30(水)【前期卒業証書・学位授与式】

【前期卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会】

10/13(火)～11/28(土)

【博物館特別展】

「祈りと造形－韓国仏教美術の名品－」

10/13(火)【開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要】

「学ぶことの意味をたずねて」

絹川 正吉 元国際基督教大学学長

10/17(土)・18(日)

【大学院秋季試験】

【大学院社会人入試】(17日のみ)

【第3学年社会人編入学試験】(18日のみ)

【第3学年推薦編入〔前期日程〕】(18日のみ)

10/21(水)【大谷学会研究発表会】

慧思の未法観 采翠 晃 大谷大学講師

大岡昇平と太宰治－それぞれの「ハムレット」、それぞれのシェイクスピア－

芦津かおり 大谷大学准教授

クメール・ルーシュ特別法廷と移行期の正義

阿部 利洋 大谷大学准教授

保育者として卒業した人たちの動向と実態

徳岡 博巳 大谷大学教授

10/28(水)【宗祖御命日勤行・講話】

「帰本願」

藤嶽 明信 大谷大学教授

11/ 7(土)・8(日)【公募制推薦入試】

11/13(金)～15(日)【2009年度 紫明祭】

11/14(土)【第14回同窓会ホームカミングデー】

11/21(土)・22(日)【指定校制推薦入学制度】

11/27(金)【大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要】

「真宗と他者－依正二報滅亡の世に－」

大桑 齊 大谷大学名誉教授

12/ 5(土)【教育後援会中国地区父母兄弟懇談会】<広島会場>

12/ 6(日)【教育後援会中国地区父母兄弟懇談会】<松江会場>

12/ 9(水)【“人権問題を共に考えよう”全学学習会】

「遺品が語る真実！ 気付かれない死に様から学ぶ事」

吉田 太一 キーパース代表取締役

12/12(土)【第3学年推薦編入〔後期日程〕】

【大学院外国人留学生入試】

12/13(日)【自己推薦入試】

12/15(火)～2/13(土)

【博物館冬季企画展】京都を学ぶ

「The Collection of 禿庵 TOKUAN－大谷瑩説と京都の東洋学－」

2010年

1/16(土)・17(日)【大学入試センター試験利用入試】

2/ 7(日)～10(水)【一般入試〔第1期〕】

2/26(金)【第3学年一般編入学試験】

2/27(土)・28(日)【大学院春季試験】

3/ 9(火)【一般入試〔第2期〕】

3/18(木)【卒業証書並びに学位授与式】

【卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会】

続いて、北海道大学名誉教授の藤田宏達氏が「浄土經典研究－近代真宗学の方法論－」という題で講演されました。南条博士が「近代仏教学」を、近代の文献学・歴史学の方法論的基礎に立つ客観的研究である、と明確にされた意義に



安富信哉教授

会を記念する講演会が開催されました。最初に、本学の安富信哉教授が「近代における浄土教研究－近代真宗学の方法論－」という題で講演されました。安富教授は講演の中で、真宗学の方法論は、その祖型を学祖としての親鸞に見いだす規範的研究であると確認され、その近世宗学における継承・固定化の問題、近代教



采翠 晃講師

二〇〇九年十月二十二日(木)、響流館メディアホールを会場に大谷学会研究発表会が開催されました。最初に、采翠晃講師が「慧思の

大谷学会研究発表会を開催

国内外から多くの聴衆の参加をいただき、盛会の内に幕を閉じました。

ついて述べられました。そして、浄土經典研究の現況と課題を詳しくお話になり、浄土經典の研究においては、宗祖親鸞が『無量壽經』を異訳經典と比較対照された学び方になり、近代の文献学的研究の成果に鑑みた研究が必要であると述べられました。



藤田宏達氏

末法観」という題で発表をされました。中国における末法思想の嚆矢とされている慧思の末法観がどのようなものであったかを、末法思想を中国に伝えたと言われる那連提耶舎の末法観と比較し発表されました。慧思がどのような末法を自覚するようになったのか、その背景を考察しながら、慧思の末法観は未来に向けて現在に強烈に働きかけている点において那連提耶舎と異なることを述べられました。

次に、芦津かおり准教授が「大岡昇平と太宰治―それぞれの『ハムレット』、それぞれのシェイクスピア―」と題して発表されました。『ハムレット』の翻案を手がけた二人の作家について、社会的・政治的な側面を前景化して執筆した大岡に対し、個人の心の愛憎を中心に執筆したのが太宰である、と両者の相違点をあげられました。どちらも西洋文学に対抗心は燃やしながらも、『ハムレット』が持つ力を認めて独



芦津かおり准教授

自の表現空間を作り出していると解説されました。

続いて、阿部利洋准教授は「クメール・ルージュ特別法廷と移行期の正義」と題し、一九七〇年代後半にカンボジアを支配したクメール・ルージュ元幹部らを裁く特別法廷について、その諸問題を発表されました。法廷設置へいたる背景を説明するなかで、国内外の政治的な立場の違いに起因する問題を明らかにしつつ、移行期の社会では法秩序の実現をめざす動きがもたらす独特の社会的効果に注目する必要があると指摘されました。



阿部利洋准教授

最後に、徳岡博巳教授が「保育者として卒業した人たちの動向と実態」という題で発表をされました。保育者として卒業した人を対象に行われた「卒業生調査」の結果をもとに、卒業後の進路や職場環境、離職理由、仕事にやりがいを感じたことなどについて細かく項目をわけて解説されました。徳岡教授は、保育の



徳岡博巳教授

現場にはプラスとマイナスの要素が混在しているため、大学と現場が連携し卒業生が抱える不安をサポートすることが不可欠であると結ばれました。

研究発表会には学外参加者も多く、活発な質疑応答がなされました。発表内容は、『大谷学報』に要旨または論文として掲載される予定です。

中国・閩南佛学院に「昭圓文庫」を開設

河内昭圓名誉教授が、中国文学、



閩南佛学院の了法師揮毫による「昭圓文庫」

哲学、中国仏教、日本仏教などのご自身の蔵書二五〇六冊を閩南佛学院（中国廈門）に寄贈され、「昭圓文庫」として廈門紫竹林寺にある閩南佛学院女衆院部図書館に開設される運びとなりました。

二〇〇九年九月六日（日）、閩南佛学院入学式において、河内先生ご夫妻ご出席のもと贈呈式が執り行われ、聖輝院長より榮譽証書が、廈門市政府陳建徳部長より記念品が贈呈されました。このたび蔵書を寄贈されることとなった経緯は、河内先生の指導を受けられた林観潮氏（二〇〇四年三月博士学位取得、現廈門大学哲学系副教授）が、閩南佛学院で非常勤講師として中国哲学史を教えられておられるご縁によるものです。

九月八日（火）には、同学院講堂において河内昭圓名誉教授による「二九七八年の江南仏教」と題する講演も行われ、閩南佛学院の学僧や廈門大学の学生約五〇〇人が熱心に聞き入りました。

教育・心理学科開設記念シンポジウムを開催

二〇〇九年七月十八日（土）、大谷大学講堂において朝日新聞社広告局との共催で、教育・心理学科開設記念シンポジウム「子どもと築く豊かな関係―未来を創るきずなの力

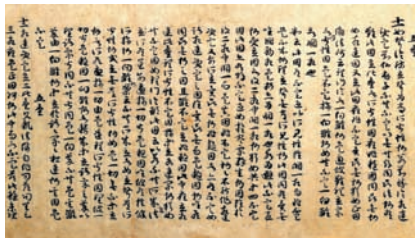


シンポジウムの様子（大谷大学講堂で）

」が開催されました。
当日の基調講演では、NHKの「できるかな」で「ノッポさん」として出演されていた高見のっぽ氏を講師にお招きし、「ノッポさんの小さい人とのつきあい方」というテーマで、子どもが大人をどのように見ているのか、ご自身の子どもの頃の体験をもとにお話いただきました。
その後のパネルディスカッションでは、朝日新聞社の上島誠司氏がコーディネーターとなり、パネリストの高見のっぽ氏、京都市教育委員会の河村広子氏、教育・心理学の脇中洋教授から、それぞれ子どもたちとの豊かな関係作りについてのお考えが示されました。四〇〇名に上る会場の参加者との質疑応答も活発になされました。
当日のシンポジウムの様子は、八



観覧の様子



判比量論（重要文化財・大谷大学所蔵）

博物館では、二〇〇九年十月十三日（火）から十一月二十八日（土）、特別展「祈りと造形―韓国仏教美術

博物館特別展「祈りと造形―韓国仏教美術の名品―」を開催

月二十二日（土）の朝日新聞（朝刊）に採録記事として掲載されました。



子どもの頃の体験を語る高見のっぽ氏

の「名品―」が開催されました。
今回の特別展は、二〇〇七年の韓国・東國大学校博物館との交流協定締結に基づく最初の事業として開催されたものです。

展覧会では、東國大学校博物館所蔵の仏教美術コレクションを中心に、日本国内に残る韓国伝来の名品及び本学が所蔵する資料が展示されました。韓国仏教の生み出した仏教美術の一端を、「三国時代から統一新羅時代」「高麗時代」「朝鮮時代」の三つの時代に区分し、絵画、彫刻、書跡などで紹介。特に東國大学校博物館所蔵の資料は、日本で初めて公開されるものがほとんどで大変興味深い特別展となりました。加えて、東國大学校関係者をはじめ、韓国からの来館者も多かったのが今回の特色でした。

清水洋一郎さん 大学生落語選手権で第三位敢闘賞を受賞

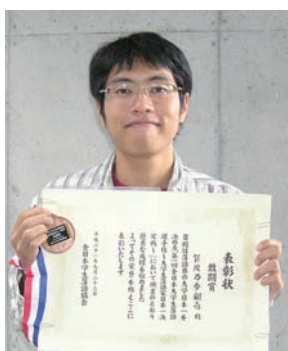
二〇〇九年九月二十三日（水）、落語研究会に所属する清水洋一郎さん（芸名・賀茂乃歩翻志・史学科第三学年）が、「第一回全日本大学生落語選手権」の決勝戦に出場し、第三位敢闘賞を受賞しました。

この選手権は、全日本大学生落語協会主催で、全国の大学生を対象に学生落語界のさらなる発展を目指して

開催されるものです。

清水さんは西日本予選を突破し、準決勝に出場。準決勝では総勢十二名の学生の落語家たちが雌雄を決し、清水さんはファイナリストの三名に選ばれました。しかし、今回はおしくも優勝を逃し、第三位敢闘賞の受賞となりました。

清水さんは「次の策伝大会に雪辱を果たしたい」との決意を語るとともに、「落語をとおして様々な方々から励ましの声をかけていただいた。ありがとうございます」とお礼を述べていました。



喜びの清水洋一郎さん

柏本安里沙さん WBTフインターナショナルカップに出場（三位入賞）

二〇〇九年八月六日（木）から九日（日）までオーストラリアで開催されたバトントワリングの世界大会「第五回WBTフインターナショナルカップ」で、フリースタイルチーム部門に柏本安里沙さん（社会科学部第四学年）が所属する、チームRitsumeikan University Baton Team



チームメイトと柏本安里沙さん
(後列左から2人目)

口が見事三位入賞を果たしました。

柏本さんは、昨年引き続き二回目の出場。昨年の経験を活かし、上位を狙って良い演技をしたいと日々練習に励んできた柏本さんは、この大会について「インターナショナルカップでは、昨年に引き続き銅メダルをいただくことができ、メダルの色は同じでもここまで培ってきた技術と共に汗を流した仲間との絆を思うと、去年とはまた違った重みを感じます。二位と一点差で負けてしまい、悔しい結果となりましたが、今大会に到るまでに、度重なるアクシデントを乗り越え、監督、コーチの方々のご尽力のもと練習をしてこられたことに感謝しています。この素晴らしい経験を社会に出ても活かしていきたいと思えます」と語ってくれま

した。

矢弘樹さんの写真が特選に選ばれた

二〇〇九年九月発行の『アサヒカメラ』内のコーナー「ファーストステップ」で、矢弘樹さん(哲学科第一学年)の写真が特選に選ばれ、「郷愁」というタイトルで掲載されました。

矢さんは高校一年生の時に写真部に入ったのをきっかけに、写真のおもしろさに気づき、写真を撮り始め「写真を撮ることで生まれる表現力、写真を観ることから始まる創造力、そういったものが好きで写真を続けています」と写真を撮る楽しさを話してくれました。

また、矢さんはこのたびの入選について「初めて応募したコンテストで、いきなり特選に選ばれたので自分でもびっくりしました。写真に対する自分の熱意がどこまでのものなのかわからなくて、迷っていた時期もあったので今回の入選は本当に嬉しいです」と感想を述べていました。



特選に選ばれた「郷愁」

敬 弔

鄭 早苗先生ご逝去

二〇一〇年二月四日、大谷大学教授の鄭早苗先生がご急逝されました。ここに深甚の謝意を表し、慎んで哀悼の意を表します。



寺添証顕先生ご逝去

二〇一〇年二月四日、大谷大学任期制助教の寺添証顕先生がご急逝されました。ここに深甚の謝意を表し、慎んで哀悼の意を表します。



人 事

退職

* 依願退職

〔事務系嘱託〕

近藤 聡子 (学生支援部)

二〇〇九年九月十日付

照屋きく代 (教育研究支援部)

二〇〇九年九月三十日付

新規採用

〔事務系嘱託〕

別所めぐみ (教育研究支援部)

二〇〇九年十月一日付

大谷大学教員の出版物紹介

◎ 『四十八願概説』

— 法蔵菩薩の願いに聞く —

一楽真 著
文栄堂 刊

(二〇〇九・六) 二六二頁



◎ 『An Illustrated Eco-history of the Mekong River Basin』

Tomoya Akimichi (秋道智彌) 編著
高井康弘 分担執筆

White Lotus (Bangkok, Thailand) 刊

(二〇〇九) 一七九頁

◎ 『本願所寺院組織の確立と信仰文化の形成 - 伝播に関する歴史民俗学的研究』
大谷大学真宗総合研究所平成二一年度一般研究(豊島班) 研究成果報告書

豊島修 編集

豊島修・山本殖生・祐川恵理・鈴木善

幸・大谷めぐみ・石黒智教・加藤基

樹・高野弥和子・平野寿則・木場明

志・根井浄・鈴木昭英 分担執筆

大谷大学真宗総合研究所 刊

(二〇〇九・三) 一五〇頁

◎ 『タイ事典』

日本タイ学会 編

高井康弘 分担執筆

めぐみ 刊

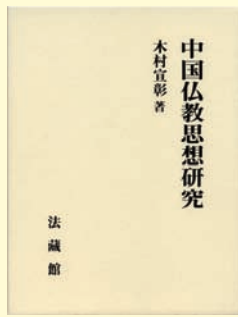
(二〇〇九・九) 五五六頁

◎ 『京大心理臨床シリーズ7 「発達障害」と心理臨床』

伊藤良子・大山泰宏・角野善宏 編
谷口奈青理 分担執筆
創元社 刊

◎『きょうのことば4』
大谷大学 刊
(二〇〇九・三) 四六四頁

◎『中国仏教思想研究』
木村宣彰 著
法藏館 刊
(二〇〇九・九) 五〇五頁



◎『新 保育の考え方と実践』
瀧川光治 編著
富岡量秀 共著
久美出版社 刊
(二〇〇九・一〇) 二二七頁

◎『タイ文化圏の中のラオス—物質文化・言語・民族—』
新谷忠彦、クリスチャン・ダニエルズ、
園江満 編
高井康弘 分担執筆
東京外国語大学アジア・アフリカ言語
文化研究所 刊
(二〇〇九・九) 四〇一頁

二〇一〇年度博物館開館予定

◆春季企画展 大谷大学のあゆみ
「赤レンガの学舎」
四月一日(木)～五月二十二日(土)

◆夏季企画展
「インドの仏像の流れと仏教美術
の伝播—畠中光亨コレクション—
(仮)」
六月八日(火)～八月八日(日)

◆秋季企画展「写しの文化(仮)」
※実習生展併催
九月七日(火)～九月二十五日(土)

◆冬季企画展「京の寺内町(仮)」
十二月十四日(火)～
二〇一一年二月十九日(土)

◆特別展「親鸞聖人展(仮)」
十月十三日(水)～
十一月二十八日(日)

詳細は大学ホームページをご覧い
ただくか、博物館(T E L 〇七五

—四一一—八四八三—にお問合せく
ださい。

夏季企画展「インドの仏像の流れと仏教美術の伝播—畠中光亨コレクション—(仮)」

大谷大学響流館正面玄関の絵画「仏陀とその弟子」の作者で、本誌表紙絵をご担当いただいている畠中光亨さん(一九七〇年文学部卒業)の展覧会「インドの仏像の流れと仏教美術の伝播—畠中光亨コレクション—(仮)」が博物館で開催されます。畠中さんは描線と色彩による絵画の可能性を探り、日本画の新境地を拓いてきた作家で、国内のみならず海外でもいくつもの展覧会に出展してきました。二〇〇九年度は、エス



醉象調伏の仏陀
8世紀 インド・パーラ朝

トニア国立美術館やラトビア国立博物館に招聘され、長期にわたる個展を開催しました。さらに二〇一一年には、インドその他での展覧会が予定されています。

また自身の制作と平行して、長年にわたりインド美術の研究と収集を続けてきました。その成果として『インド宮廷絵画』や『Textile Arts of India』などが内外で出版されています。

今回は仏教美術に的を絞り、インドでの仏像誕生から衰退まで、ネパール、チベット、東南アジア諸国、中央アジアから日本まで、仏像の流れと仏教美術を視覚的に訴え、世に問う展覧会です。展示品の中には我々唯一の十一から十二世紀インド、パーラ朝期の挿絵入りの貝葉経や五世紀のインド、グプタ朝期のサールナート仏も含まれ、夏季企画展として公開させていただきます。会期は六月八日から八月八日まで。

二〇〇九年度

秋季課外活動結果

【団体成績】

●卓球部(男子)

・関西学生卓球秋季リーグ戦

IV部Bブロック 二位 四勝一敗

●卓球部(女子)

・関西学生卓球秋季リーグ戦

IV部 三位 三勝三敗

●空手道部

・全関西大学空手道選手権大会

II部 二回戦敗退 一敗

●硬式野球部

・京滋大学野球秋季リーグ戦

I部 三位 四勝六敗

●サッカー部

・関西学生サッカー前期リーグ戦

III部Bブロック 二位 八勝一敗一分

・関西学生サッカー後期リーグ戦

III部Aブロック 二位 八勝二敗

・第八十七回関西学生サッカーリーグ

II—III部入替戦 一敗

●剣道部 (男子)

・全日本仏教系大学剣道大会
予選リーグ敗退 三敗

●剣道部 (女子)

・全日本仏教系大学剣道大会
予選リーグ敗退 二敗

●バスケットボール部 (男子)

・関西学生バスケットボール秋季
リーグ戦 V部Bランク

六位 (V部B残留) 三勝七敗

●バスケットボール部 (女子)

・関西女子学生バスケットボール秋
季リーグ戦 III部Cブロック

一次リーグ敗退 五勝三敗

●ソフトテニス部 (男子)

・関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦
V部Cブロック

四位 (V部D降格) 一勝二敗

●バドミントン部 (男子)

・関西学生バドミントン秋季リーグ戦
VI部Cブロック 一位 五勝

・VI部校優勝決定リーグ
敗退 VI部残留 一敗

●アメリカンフットボール部

・関西アメリカンフットボール秋季
リーグ戦 III部Cブロック

四位 一勝三敗

【個人成績】

●硬式野球部

〈京滋大学野球連盟秋季リーグ戦〉

【ベストナイン】

・捕手 藤川 圭市

・外野手 加藤 健太

・陸上競技部

〈関西学生陸上競技学年別選手権
大会兼関西学生混成選手権大会〉

●男子競歩一〇〇〇〇m

・第四位 西村 慈生

・男子バスケットボール部

〈関西学生バスケットボール秋季リーグ戦〉

【得点王 (P.Average 34.5)】

・奥野 一平

●跆拳道部

〈リンクステコンドローフェスティバル〉

【男子一般 中級ウェルター以上合同級】

・準優勝 吉田 広輝

・準優勝 吉田 広輝

〈全日本テコンドロー選手権大会
西日本地区大会〉

【男子一般 八〇キロ以下級】

・優勝 吉田 広輝

・Reiz Taekwondo CUP TOUR-

NAMENT)

【男子一般 初級五八キロ以下級】

・準優勝 中村 広紀

・文学部社会科学 第一学年

以上

教育振興資金(募金)への御礼

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。このたびはご協力いただき、誠にありがとうございます。ご寄付いただきました資金は、教育・研究の充実を図るための環境整備に充ててまいります。また、大谷大学は文部科学省から「特定公益増進法人」の認可を受けていますので、寄付金に対しては税法上の減免税措置が受けられます。今後引き続き、募金のお申し込み受け付けを行っておりますので、ご支援賜りますようお願い申し上げます。二〇〇九年七月一日から二〇一〇年一月三十一日までの間に、ご寄付をいただきました方々のご芳名は次のとおりです。厚く御礼申し上げます。

◆件数 一一八件
◆寄付金総額七、二七〇、〇〇〇円

「教育振興資金寄付者(敬称略)」

赤松 祐修 朝日 静文 足利 芳文
天山 敬信 荒金 俊光 庵 絃昌
池浦 リエ 池上 哲司 石井 宗
石黒 明磨 稲岡 智賢 稲葉 是邦
猪井 勝美 井上 証 井上 雅之
井上 護 井上 温成 伊吹 研一
今田 法雄 岩崎 全記 遠藤 一成

大井 健之 太田 秀行 大谷 尚志
大友 芳憲 大場 信 小笠原英司
小川 秀明 小川 弘美 奥林 曉
小野内悦二郎 加登 博 加藤 博文
蒲池 承英 川上 孝道 川崎 敬子
川崎 正則 楠 秀磨 熊谷 博樹
越宗あさこ 小堀 賢一 小山 勝
近藤 昌丸 齊藤 和彦 佐々木 元
笹沼 俊秀 佐藤 義成 島 節子
寫頭 正道 白井 幸廣 菅原 建
関 英隆 高山 顕義 嶽小原 晃
竹浪 達朗 橋 顯 巽 正俊
龍山 了祐 田中 明 田中 清文
玉岡 士了 辻 祐岳 辻 嘉一
寺岡 聡 寺田 彰 寺西 龍水
中井 賢隆 長迫 邦子 長澤 藤男
難波 明則 沼畑 三郎 野瀬 繁和
野村 重夫 橋本 義介 長谷岡英信
早崎 得雄 東山 正賢 平野 雅彦
藤井 憲明 藤居美津子 藤坂 初裕
古谷 清磨 細居 茂 本多 恵実
前田 昌子 松井 幸治 三浦 勝美
三井 英俊 光弘 隆 三井 智彰
宮野 剛 村上 修 矢田 政人
山中 茂弘 山本 隆司 湯川 健司
吉岡 正和 吉川 久雄 吉藤 優子
和田 一馬 渡邊 登 渡部 良治
匿名「五名」
(株)金剛組 (株)アカシヤ・赤井 教悦
福泉寺(穴山 尚樹) 正覚寺(石川 易)
廣誓寺(亀崎 英潤) 浄照寺(土室 完)
雲願寺(鍋野 一信) 円徳寺(藤谷 伸宏)
西敬寺(別符 聡)
(有)オフィスジュレ・山外 恭久
教育後援会役員有志

2010年度前期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学では様々な教養を身につけたい方に、本学の知的資産をベースとした生涯学習講座を開講しています。本学ならではの宗教・信仰を求めていく講座、現代社会をいかに生きるのかをテーマとする講座、京都の文化の奥深さを知る講座など、切り口は多様ですが、共通するテーマは「人間」です。大谷大学の生涯学習講座にご期待ください。(講師の肩書は2010年3月現在のものです。)

開放セミナーのご案内

1	テーマ	大乘仏教のあゆみ 一親鸞の眼を通して⑨ 「和国の教主一聖徳太子」 〈協賛:NPO法人「尋源舎」〉
	講師	宮崎 健司(大谷大学教授/大谷大学博物館学芸員) 織田 顕祐(大谷大学教授)/井上 尚実(大谷大学講師)
	開講日	5月26日・6月2日・9日・23日・30日・7月7日(水曜日)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	6,000円(税込)
	申込締切	5月19日(水)当日消印有効



開放セミナー「大乘仏教のあゆみ」
講座風景
(大谷大学響流館メディアホールにて)

4	テーマ	絵本を楽しむ
	講師	藤本 芳則(大谷大学短期大学部教授)
	開講日	6月24日・7月1日・8日(木曜日)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
申込締切	6月17日(木)当日消印有効	

5	テーマ	さあ、ビートルズで景気よくいこう!
	講師	米本 義孝(安田女子大学文学部教授/元大谷大学教授)
	開講日	5月21日・6月11日・7月16日(金曜日)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
テキスト	The Beatles 1962-1966 (赤盤) 東芝EMI	
申込締切	5月14日(金)当日消印有効	

紫明講座のご案内

1	テーマ	【本願寺聖人 親鸞 伝絵】序説 宗祖親鸞聖人750回御遠忌記念講座
	講師	沙加戸 弘(大谷大学教授)
	開講日	5月20日・27日・6月3日(木曜日)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
申込締切	5月13日(木)当日消印有効	

2	テーマ	健やかなごころと身体で、しなやかに生きる
	講師	田中 久美子(大谷大学准教授)
	開講日	5月25日・6月1日・8日(火曜日)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
申込締切	5月18日(火)当日消印有効	

3	テーマ	仏教美術の楽しみ—童子像のふしぎ—
	講師	齋藤 望(大谷大学教授/大谷大学博物館学芸員)
	開講日	6月22日・29日・7月6日(火曜日)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
申込締切	6月15日(火)当日消印有効	

京都学講座のご案内

1	テーマ	親鸞聖人の生涯と御影堂の歴史(大谷大学・龍谷大学連携講座)
	講師	草野 顕之(大谷大学教授) 佐藤 文子(本願寺史料研究所研究員)
	開講日	5月22日・6月26日・7月10日・17日(土曜日) フィールドワークは7月10日・17日いずれかから都合の良い日を選択してください。
	時間	13:15~14:45(3回目のみ13:15~16:30)
	定員	40名
	会場	1回目:大谷大学本部キャンパス 2回目:龍谷大学大宮学舎 3回目:東西本願寺フィールドワーク
	受講料	REC会員5,400円 一般 7,800円(税込)
申込締切	4月28日(水)当日消印有効 応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。 抽選予定日:4月30日(金)	

【詳細のお問合せ】

パンフレットをご希望の方は、下記までお問合せください。
また受講申し込みの際には、ハガキ、FAX、大学HP生涯学習講座メールアドレスのいずれかにて、①講座名、②氏名・フリガナ、③郵便番号・住所、④電話番号を明記してください。

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課 MU係
TEL.075-411-8161(直通) FAX.075-411-8162
URL: http://www.otani.ac.jp/syougai_g/index.html

*講座名等は変更になることがあります。各講座の詳細については、教育研究支援課までお問合せください。



◆ミニ便箋

赤・青 二色(貝葉資料を包装していた更紗よりデザイン)
各三五〇円(税込)



◆クリアファイル

五枚一組特製封筒付き(中国雲崗石窟・天龍山石窟の拓本からデザイン)
五〇〇円(税込)



◆トートバッグ

四〇センチ×三〇センチ×八センチ(中国古印をデザイン)
一、五〇〇円(税込)

ミュージアムグッズを販売中
博物館が所蔵している貴重な資料をデザインした各種グッズを販売しています。各種行事等でもご利用いただけます。ご案内いたします。地方発送等も承ります(送料別)。お問合せとお申し込みは博物館(〇七五—四一—八四八三)まで。



体育会ソフトテニス部OB会 (2009.6.27~28)
一年に一度、現役生とOBが交流を深める唯一の場。今回も例年同様、有意義な時を皆が過ごせた様に感じました。



浄影会 (2009.8.8)
今年も無事開催でき、古田先生と楽しい時間を過ごすことができました。また、副会長の捨て身の笑いで大いに盛り上がりました。



寺川ゼミ大学院修士1期生・2期生同窓会 (2009.8.17)
先生の御自坊で開催。師を賜ったことの喜びと念仏の伝統などを感じ、至福の時間となりました。

中央会 (大谷大学貴練学寮2002年度入寮生同期会) 第1回同窓会 (2009.8.22~23)
卒業後はじめての同窓会。熱海に大勢が参集。欠席者も仕事なのでやむなくの由。寮生ならではの結束力が嬉しかった二日間でした。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会

恩師を囲んで

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会等の開催をお世話いただく幹事さんへ

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会を企画される場合は、開催の1ヶ月前までに同窓会本部へご連絡ください。申請により、連絡用リスト(名簿)・宛名シールの提供、通信費の一部として開催助成費を補助しています。また、同窓会ホームページ「無盡燈」にも開催告知・報告を掲載いたします。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

開催日	会 合 名
2009. 6.27 (土)	体育会ソフトテニス部OB会
2009. 8. 8 (土)	浄影会
2009. 8.17 (月)	寺川ゼミ大学院修士1期生・2期生同窓会
2009. 8.22 (土)	中央会 (大谷大学貴練学寮2002年度入寮生同期会) 第1回同窓会
2009. 8.29 (土)	道交会総会・追年会
2009. 9. 1 (火)	大谷大学育英学寮 (昭和30年4月入寮) 同期会
2009. 9. 2 (水)	昭和三十四年度岩見先生フランス語教室クラス会
2009. 9. 5 (土)	2000年卒業加来雄之ゼミ同窓会
2009. 9.12 (土)	吉元ゼミOB会
2009. 9.12 (土)	大谷大学陸上競技部創部八十五周年記念式典
2009. 9.14 (月)	昭和31年育英寮 入寮同期会
2009. 9.18 (金)	安富ゼミ一期生
2009. 9.19 (土)	2006年卒業 福田ゼミ同期会
2009. 9.27 (日)	2009年度大谷大学卓球部後援会総会・懇親会並びに卓球大会 (雲井杯争奪戦)
2009. 9.27 (日)	大谷大学混声合唱団OB会 総会
2009.10. 3 (土)	大谷大学国文学会
2009.10.16 (金)	昭和43年入寮 洗心学寮同期会
2009.10.17 (土)	直心行射会・OB総会・懇親会
2009.10.17 (土)	藩語研究会懇親同窓会
2009.10.29 (木)	大谷大学専門部 (昭和21年9月卒業) 同期会
2009.11. 1 (日)	大谷大学バレーボール部OB・OG会
2009.11. 8 (日)	大和ゼミ大集合 同窓会
2009.11.14 (土)	スキー競技部OB・OG会 谷雪会 総会
2009.11.14 (土)	社会福祉 安井ゼミ1期生会
2009.11.20 (金)	大学院木村ゼミ第1期生+α
2009.12.19 (土)	第1期木越ゼミ 同窓会
2009.12.19 (土)	大谷大学自動二輪同好会 第8回OB会
2009.12.29 (火)	鄭ゼミ 平成15年卒業生忘年会
2010. 1. 2 (土)	2009年卒業 松村組新年会
2010. 1. 7 (木)	大谷大学剣道部 講武会
2010. 1.12 (火)	福島ゼミ (如是会) OB・OG会
2010. 1.23 (土)	小野ゼミ平成5年卒業生同窓会
2010. 1.29 (金)	2008年度東館ゼミ卒業生同窓会





大谷大学育英学寮（昭和30年4月入寮）同期会（2009.9.1）
北海道から九州までの諸兄が集いました。懇親会は下京・たん熊本家で開き、半世紀ぶりに逢う友との交流もあって大いに盛り上がりました。



道交会総会・追弔会（2009.8.29）
道交会が始まって今年で八十周年になります。先輩方が築かれた長い歴史と柔道部への思いを大切に残して行きたいです。



昭和三十四年度岩見先生フランス語教室クラス会（2009.9.2）
同期会を愛知県西浦温泉で開催しました。クラスの物故者追弔会法要は幸田町廣福寺様でお勤めいただきました。



2000年卒業加来雄之ゼミ同窓会（2009.9.5）
卒業して10年の節目。久しぶりに大学でゼミを行い、ゼミ生の発表と先生のご講義を頂きました。その後、懇親会を開き、加来先生の教授になられたお祝いをしました。大変有意義な一日でした。



吉元ゼミOB会（2009.9.12）
京都市内のインド料理店で、ゼミOB会を開催しました。吉元先生を囲んで19名の同窓生が集い、和やかな会となりました。



大谷大学陸上競技部創部八十五周年記念式典
(2009.9.12)
陸上部85周年です。駅伝への熱い思いをOB
と在校生で交流しました。今すぐにも走り出
しそうな元気な陸上部です。



安富ゼミ一期生 (2009.9.18~19)
秋彼岸前ということもあり少人数でしたが、奥様共々弥彦山や
関連寺院参拝、独特な岩盤浴体験と、濃い時間を過ごした二日
間でした。



昭和31年育英寮 入寮同期会 (2009.9.14)
金沢、湯涌温泉にて一夜、旧交をあたため思い出話には大いに花が咲いた。次回は二年後。

2006年卒業 福田ゼミ同期会 (2009.9.19)
卒業後、初めて同窓会を開催しました。学生時代の気
持ちに戻れた楽しい時間を過ごせました。今後は定期的
に同窓会を開催していきたいと思います！



2009年度大谷大学卓球部後援会総会・懇親会
並びに卓球大会(雲井杯争奪戦) (2009.9.27)
9月27日(日)夕刻より京都御所前「平安会館」
で開催。現役の現況報告、本日の卓球大会の入
賞者表彰式、久しぶりに顔を合わせたOB・OG
のスピーチ等盛会裏に終了いたしました。



大谷大学国文学会 (2009.10.3)
国文学分野卒業生が大谷大学に集い、卒業生の野村卓美氏の講演を聴講した。その後懇親会を開き、楽しい時間を過ごした。



大谷大学混声合唱団OB会 総会 (2009.9.27)
昨年12月に創団40周年の演奏会で記念のOB合同ステージを持ちました。総会では50周年に向けて話し合いました。



昭和43年入寮 洗心学寮同期会 (2009.10.16)
卒業して四十年の歳月がたち、久しぶりの再会。持ちよった地酒を酌み交わし、旧交をあたためた。次回は三年後。

直心行射会・OB総会・懇親会 (2009.10.17)
学生諸君を取り巻く環境は年々と厳しくなっていますが、この弓道の存在意義を自覚できる人である事を願います。



大谷大学専門部(昭和21年9月卒業)同期会 (2009.10.29)
昨年に引き続き京都で開催。戦時中の勤労動員や寮生活他、共通の話題も多く賑やかな一時を過ごした。



落語研究会懇親同窓会 (2009.10.17)
世代を超えた面々が一同に会し再会を懐かしむと共に、現役、OB・OGの交流により新たな良き繋がりができた事を嬉しく思います。



大和ゼミ大集合 同窓会 (2009.11.8)
先生を囲み楽しく食事をしてたくさんおしゃべりをして笑顔いっぱい
の会でした。大和ゼミの皆様、また次回、ふるってご参加下さい。



大谷大学バレーボール部OB・OG会 (2009.11.1)
当日は築山先生ご退職記念も兼ねた会でした。これまでお世話になりました先生を
囲み、楽しい雰囲気での会となりました。



スキー競技部OB・OG会 谷雪会 総会
(2009.11.14)
11月14日、リーガロイヤルホテル京都にて谷雪会
総会を開催しました。懇親会では今春急逝された
OGに黙祷を捧げ、現役と共に懇親いたしました。



大学院木村ゼミ第1期生十α (2009.11.20)
木村先生が今年度末で退任されます。同窓の皆さんに集まって頂く機会も設けた
いと思いますので、その時には宜しくお願いたします。



社会福祉 安井ゼミ1期生会 (2009.11.14)
久々の再会。話に夢中になりました。おかげで、新しい企画が立ち上が
りそうです。卒業後も、安井ゼミ生の福祉は、大きく成長しています。



大谷大学自動二輪同好会 第8回OB会 (2009.12.19)
OB会も8回を重ね、いよいよ結婚する人たちもできました。そろそろ赤ちゃん連
れの参加者ができそうですね。(伊奈・家本・田中)



第1期木越ゼミ 同窓会 (2009.12.19)
卒業以来初めての集合です。近況報告や大学の思い出話に花を咲かせま
した。三年後、三〇歳記念の一泊旅行の話が持ち上がりました。



2009年卒業 松村組新年会 (2010.1.2)

大好きな松村先生に癒された新年会。たくさん笑って解散。次回の開催を楽しみに、今年も一年頑張らしましょう。



鄭ゼミ 平成15年卒業生忘年会 (2009.12.29)

1年ぶりに集まって楽しく過ごせました。次回はゼミメンバー全員が集まれることを願っています。



大谷大学剣道部 講武会 (2010.1.7)

2010年1月7日に、前師範の安立多計彦先生の追弔会をお勤めした後、現役学生との合同稽古を行いました。新年恒例の行事にしたいと考えています。



小野ゼミ平成5年卒業生同窓会 (2010.1.23)

先生の地元金沢での開催でした。ご家族にもご出席いただき、今回は京都にて開くことを約束して散会しました。



福島ゼミ (如是会) OB・OG会 (2010.1.12)

南御堂での秋安居に出講された福島先生を慰労し、近隣のOBが集まりました。先生のお変わりないお姿に一同感激でした。

2008年度東館ゼミ卒業生同窓会 (2010.1.29)

少人数の同窓会でしたが、昨年の今頃を思い出しながら、近況を報告し合って楽しい時間を過ごしました。杉本理先生にもご出席を頂きました。



通 信

「国語の授業の現場から」

高堂 祐真

(一九七八年文学部・真宗学科卒業)

「書店に入ると、大河ドラマなどのガイドブックが並んでいる。また、演劇などの会場では、上演される演劇のガイドブックが販売されている。ガイドブックには、出演している俳優たちの写真と共に、演じてみての心境などが出演者本人の言葉で書かれている。俳優同士の対談のページや、Q&A等のページもあり読者の目を引く。

もしも小説『故郷』の登場人物を、俳優たちが演じるとしたらどうだろうか。俳優の立場から、会話、演技、メイクなどに注意を払うことが必要だし、実際に演じてみて、初めて気がつくこともあるはずだ。ずっと心に残るセリフや場面も見つかるかもしれない。」

これは中学校三年生の国語科小説『故



郷』（魯迅作）の学習で、「読むこと」と

「書くこと」を関連づけ、子どもたちが主体的に学習することを目的として実践した学習指導案の書き出しです。この学習のゴールは『故郷』の登場人物を演じる俳優の立場に立って小説を読み、ガイドブックの一ページを書くことです。

子どもたちが日曜日に書店に行つたときに、手に取つた本の書きぶりや構成等に意識が及べば、学校の国語の授業は子どもたちの「実生活」と結びついたものになっていけると言えるでしょう。今、学校の学習が、真に「生活」と結びついているのが学校教育の課題になっていきます。この小説の作者の魯迅自身が、激動の時代を生き抜き、人間が互いに隔絶することのない「生活」について見つめ続けた人だけに、子どもたちがやがて大人になった時に、改めて、「生きる」ということの意味を見つめるきっかけになればと考えています。目先の「生活」だけに視点を置くのではなく、今日のこの一時間が、人間の生涯としての「生活」とどこかで必ず結びついているような「学び」の場でありたいと思っています。

(滋賀県・米原市立河南中学校 教諭)

結婚

おめでとうございます

幸せなご家庭を築かれることを
念じ申しあげます。



()内は最終卒業・修了年(敬称略)
※同窓会本部掌握分

- | | | |
|-------------|---|-------------|
| 橘 栄徳 | ● | 竹塚 仁美(一九九〇) |
| 和田謙太郎(二〇〇三) | ● | 村岸 陽子(二〇〇三) |
| 山田 鉄平 | ● | 頼富万里子(二〇〇二) |
| 平野 雄(二〇〇七) | ● | 岩崎 真司(二〇〇五) |
| 長田 直記 | ● | 中村亜理紗(二〇一〇) |
| 長井 善雄(二〇〇四) | ● | 北畑 愛(二〇〇四) |
| 藤原 直澄 | ● | 上野 久美(一九九六) |
| 田島 雅浩(二〇〇四) | ● | 林 里江子(二〇〇五) |
| 目崎 明弘(二〇〇九) | ● | 照光河難子(二〇〇六) |
| 街道 崇(二〇一〇) | ● | 河野 泰枝 |
| 竹花 洋佑(会 友) | ● | 河野 泰子 |
| 木村 賢(二〇〇六) | ● | 原田 祥恵(二〇〇七) |
| 家本 久和(二〇〇四) | ● | 小曾根 優 |
| 佐竹 大樹(二〇〇四) | ● | 小室 美樹 |
| 清澤 和音(二〇〇七) | ● | 美濃部裕子(二〇〇五) |
| 朝田 富裕(一九九六) | ● | 寺前 美香(一九九六) |

※大谷大学専任講師で仏前結婚式をお受けしています。お問
い合わせは、総務課(TEL〇七五-四二一八-六一三)まで。

敬 弔

ご生前のご功労を偲び、
謹んで哀悼の意を表します。
()内は最終卒業・修了年(敬称略)
※同窓会本部掌握分

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 辻 香忍 | 短期(一九六二) | 二〇〇八・一〇・五 |
| 青山 巨秀 | 文学部(一九八〇) | 二〇〇八・一一・七 |
| 小島 正雄 | 文学部(一九八八) | 二〇〇八・一二・七 |
| 恵美 龍川 | 文学部(一九四七) | 二〇〇九・四・九 |
| 高瀬 浄泉 | 大専門(一九三八) | 二〇〇九・四・三 |
| 星川 清 修 士 | (一九七二) | 二〇〇九・五・四 |

窓

同

「努力と縁と感謝の心」

久保田 絵美

(二〇〇三年文学部・国際文化学科卒業)

私は今、京都発祥の和菓子屋の喫茶部門で働いています。

京都に憧れを持ち、茨城県の親元を離れ、はじめは戸惑いつつもすぐに慣れて楽しく自由な学生生活を謳歌しました。大学の混声合唱団にも所属し、数多くの同期、先輩、後輩に恵まれ笑いあり涙あり、様々な経験をさせてもらうことができ、一生の付き合いになるであろう友人たちとも出会うことができました。

就職してからは、自分自身の打たれ弱さ、情けなさで、もともとなかった自信が更になくなり、実際の自分と理想の自分の差に大変苦しみました。就職をして



七年目になります。まだまだ理想の自分にはなりきれませんが、

しかし、私は今の自分が好きです。勿論、直さなければならぬ所は沢山有り完璧とは程遠いですが、それらも含めて今の自分が好きです。

今の自分とは、今までの自分の頑張り。と今まで出会ってきた人との縁の上に成り立つと考えています。

今の自分は今までの自分の結果。これからの自分は今の自分の行動で変えることができるはず。そして、考えを深めることは大切ですが、今できることを精一杯頑張ることが大切なのではないかということに気づいてからは少しずつ自信をつけ、自分の中に一本の芯を通し始めることができました。辛い思いをしたことも多々ありますが、今はそれも含めて全ての人に感謝しています。辛い思いをしたからこそ、自分は人にそういう思いをさせないようと思うこと。後々でも自分のためにしてくれた行動だったと気づけば私と出会ってくれてありがとう、と全ての人に思うのです。

これからの自分は今の自分がつくるもの。未来の自分も好きでいられるようにこれからも楽しく笑顔で努力し、縁を大事に生きていきたいと思っています。

(株式会社虎屋 勤務)

河戸	紹博	文学部(一九三)	二〇〇九・五・一七
篇原	一道	文学部(一九五)	二〇〇九・六・一三
藤井	静樹	短期(一九五)	二〇〇九・六・二六
川嶋	浩	大専門(一九八)	二〇〇九・六・三三
本間	義博	文学部(一九八)	二〇〇九・六・三六
多田	明見	文学部(一九五)	二〇〇九・六・三〇
青柳	郁	文学部(一九七)	二〇〇九・七・二
庭田	出	短期(一九七)	二〇〇九・七・五
下妻	正順	短期(一九五)	二〇〇九・七・九
田中	尚子	文学部(一九八)	二〇〇九・七・二
海北	昂	修士(一九五)	二〇〇九・七・四
日野	了詮	大専門(一九八)	二〇〇九・七・五
和田	信正	短期(一九五)	二〇〇九・七・八
迹見	法隆	文学部(一九四)	二〇〇九・七・九
村上	淳	大専門(一九九)	二〇〇九・七・三
曾我	信雄	文学部(一九五)	二〇〇九・八・四
長州	充	大予科(一九四)	二〇〇九・八・九
木全	徳忠	文学部(一九四)	二〇〇九・九・六
朽木	正暁	大専門(一九四)	二〇〇九・九・二
塚本	正孝	博士(一九五)	二〇〇九・九・七
藤井	堅哉	文学部(一九五)	二〇〇九・九・一七
安藤	源正	大専門(一九五)	二〇〇九・九・二〇
富岡	至成	文学部(一九五)	二〇〇九・九・三
早崎	観縁	文学部(一九三)	二〇〇九・九・三
根井	成子	文学部(一九七)	二〇〇九・九・八
沼	賢亮	博士(一九七)	二〇〇九・一〇・四
古賀	文麿	文学部(一九八)	二〇〇九・一〇・二〇
寺田	正之	短期(一九七)	二〇〇九・一〇・九
木曾	賢樹	文学部(一九八)	二〇〇九・一一・五
石川	涉	文学部(一九四)	二〇〇九・一一・三
光井	智雄	大専門(一九四)	二〇〇九・一一・三
北	秀雄	大専門(一九七)	二〇〇九・一一・四
河合	英美	文学部(一九三)	二〇〇九・一一・二
鳥居	拓哉	短期(二〇〇六)	二〇〇九・一一・七

「英語学習の変らぬ要諦」

本年三月定年まで、私は三十六年、英語教育に携わってきた。三十年ほどの昔、大谷大学に転じてきた頃、文学部における英語の必修単位は十単位だった。その後六単位になり、二〇〇五年度から四単位になった。しかし英語を二十単位でも履修したければ今も履修可能である。

授業では英語の「理解」を教え練習の手ほどきをすることができが、「読む・書く・聴く・話す」の各技能に「習熟」するには、まずその基礎になる力をつけるため、意欲のある学習者が賢い学習センスを発揮して、多大な自己学習をしなければならぬ。そうした自己学習を大學生・社会人がするについては、音声教材出現以来変らない、以下の要諦があるというのが、私の結論である。

高校英文法のマスターは大前提であり、本学英語授業で極めて重視している。話を技能面にしぼるとして、基本的英文を危なげなく生み出す力がつくまでは、「読解」を和訳で確かめたいという学習者の要求は正しい。同時に（ここからが要諦）、読解英文から選んだ短文を、和文から書

いて、あるいは口頭で「再現」する練習も、読解学習の質をよくするために必須である。「話す」技能の基礎力を養うために、学習した「会話文」を和文から口頭で「再現」する練習も必須である。「聴く」ことの基礎練習は「文字を見ないでの復唱」や書き取りによる、教材短文「全」音声の「確認」である。

これらの練習は与えられた英文を扱うに留まり、自己学習ができる。授業なら日本人教師が学習者の発音・理解を正しながら指導する。最大の眼目は「各人が」「英文を言う・書く行為」で答えることにある。「選択肢に丸」「空所に記入」という「行為」で答える学習だけに終っては技能につながらぬ。

自由英作文や自由オーラル・コミュニケーションは、基本的英文を口頭で滑らかに生み出す力がついてから、ネイティブ・スピーカー教師の担当に任せるのが、学習者・教師双方にとって満足だろう。同窓会諸氏も含み、意欲ある学習者が学習センスにも恵まれ、努力して目標に達することを祈る次第である。

大谷大学教授 英米文化・英語
鈴木 繁一

表紙絵

「マザー・テレサ―雨の中を行く(部分)」

170 × 91 cm 二〇〇九年作

私が初めてインドに一年余り滞在した時の一九七五年は、何年かに一度来る猛暑の年で、陸路でネパールからインドに下ると、持っていた四十二度までの体温計は粉々になっていました。

インド国境の町ラクソールから、遅々とした交通で釈尊ゆかりの地ヴァイシャリを巡った後、外輪船で一時間かかってガンジス河を渡り、パトナに着き、クルラハル(鶏足寺跡)などを訪れました。その後、カルカッタへの移動の途中、ヴァイクラマシラーの発掘現場に外国人として初めて訪れ、まだまだ発掘されるであろうインド後期仏教の広大な遺跡に、汗と埃まみれでしたが凍りつくような感銘を受けました。その後カルカッタ(現コルカタ)の大都会に入りました。当時のカルカッタは、東パキスタンからバングラデシュに、パキスタンから分離独立した政情不安が残り、バングラデシュからの難民が百万人にも達しており、そのため毎日何十人もの餓死者を日常的に目にしました。

現在でもそうですが、カルカッタはイギリス統治時代の建物が古びて残っている大都市で、最も汚れた町かも知れません。その町でマザー・テレサは六十八年間貧しい人々のために奉仕活動をしました。マザーは一九一〇年ユーゴスラビアに生まれましたが十八才でインドに渡り、一九二九年からカルカッタに住み、一九五〇年には国籍をインドに移し、死を目前にした孤独な人々のためにニルマル・ヒンダイ(清い心の家)や孤児の家やハンセン病診療所を開設し、最下層の人々に手を握り、やさしい言葉をかける生涯を通しました。一九九七年死亡してインドの国葬が行われます。私はニルマル・ヒンダイを訪れて一生この仕事を続ける勇気はないと思いました。マザーは来日した折の日本の感想を「豊かそうに見える日本で心の飢えはないでしょうか。だから必要とされず、だから愛されてはいない心の貧しさ、物質的な貧しさに比べて心の貧しさは深刻です。心の貧しさこそ一切のパンの飢えよりも、もっともつと貧しいことです。豊かさの中で貧しさを忘れないで下さい」と語っています。人として、宗教者として大切なことだと思います。

畠中光享(一九七〇年文学部卒業)
京都造形芸術大学教授
大谷大学非常勤講師

2010年3月15日発行

発行 大谷大学同窓会本部
編集 『無盡燈』編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
電話 (075) 411-8124 FAX (075) 411-8157
E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp
郵便振替口座 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujinto-otani.org/>

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしようなものである。冥やみがみな明るくなるが、その明りはついになくなることはない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。